

島のひろば

第703号

「島のひろば」編集委員会電話 04992-2-8256

くらしの相談は共産党町議団へ

小池2-9318 山田2-3670

酒井090-4545-0032

5月3日 「戦争はいや！」

「憲法守れ！」の声 響く

北海道から沖縄まで 東京では5万人が集う

大島では吉谷公園で

10人が参加者トーク

5月3日、79回目の憲法記念日のこの日、憲法を守り生かそうという行動が、北海道から沖縄まで全国各地で繰り広げられました。

東京では東京臨海広域防災公園に5万人が集い、「つながろう 憲法いかにして平和な世界を！2026憲法大集会（同実行委員会主催）」が開かれました。

「憲法改悪絶対反対」「憲法守れ」の声を高らかに響かせました。

共産党田村委員長を始め、立憲民主党、れいわ新選組、社民党、沖縄の風などの代表があいさつ、中道連合もメッセージを寄せました。

大島では平和を願う大島の市民団体である平和と憲法を語る大島の会が主催して、この日、元町吉谷公園に40人以上が参加し、「今こそ語る 平和と憲法5・3大島集会」が開かれました

「小さな動きがたくさん集まる、今、それが大事」

始めに主催者から、主催団体の活動が紹介されました。さらに、今、高市政権のもとで戦争できる国から戦争する国へと日本が変えられようと、そのため私たちが受け継いでき

た平和憲法が変えられようとしています。こんな今だから全国で様々な動きが始まっています。今大事なことは草の根からのそうした動きでありその小さな動きとして今日はこの小さな島でこの小さな集会を成功させようとの訴えがあり、集会が始まりました。



みんなが勇気をももらった、10人も参加者トーク

「以前、平和のため戦争展で展示物の中に『戦争はいきなり始まるのではない。日常生活の周辺からじわじわと染み込むようにやってくる。世の中が戦争に向かって傾いていくようだ。』とあり心に残っています。昨今の日本の政治状況を見るとじわじわとキナ臭い世の中になりつつあるように思われます。私には国会が軽んじられているように思えます。憲法を変え

るべきかという最も大切なことが特定の政党・議員だけで決められていくのは間違いです。知らないうちに戦争に突き進んでいくようで恐ろしいです。私たちはしっかり学び、語り

合い、行動しなくては思っているんです。」
元町のTさんは「私は大島に来る前は自衛官でした。自衛官ってどんな人たちなのか知ってほしくて発言します。私と同部屋の女の子はいつも部屋で筋トレしていました。どうして？と聞くとやせて自衛官の彼氏を作りたいから、と答えました。また別の子はいつも彼氏に電話してまわりから怒られていました。彼と電でも彼女は、彼と電話していいいと生きていけないから」と言っています。毎日電話して自衛官も普通の人間だとお分かりいただけましたか。ほとんどの新隊員は高校を出たばかりの18歳です。そんな子たちに

「日本を守るために戦争に行くってきいて、なんて、言えるでしょうか。私には言えません。しかし、憲法を変えて彼らを送ろうとしている人たちがいます。日本を守るためには仕方がないと思うのなら、どうぞ憲法を変えてあなたが戦場に行ってください。私は絶対に友達や先輩に戦場に行ってしまうことはありません。自衛隊員は今でも24時間体制で日本の海や空を見守っています。そんな自衛隊員を守ってくれているのが今の憲法ではないでしょうか。私は、自衛隊を戦場に行かせないという強い決意をもって、改憲に反対します。」

「日本を守るために戦争に行くってきいて、なんて、言えるでしょうか。私には言えません。しかし、憲法を変えて彼らを送ろうとしている人たちがいます。日本を守るためには仕方がないと思うのなら、どうぞ憲法を変えてあなたが戦場に行ってください。私は絶対に友達や先輩に戦場に行ってしまうことはありません。自衛隊員は今でも24時間体制で日本の海や空を見守っています。そんな自衛隊員を守ってくれているのが今の憲法ではないでしょうか。私は、自衛隊を戦場に行かせないという強い決意をもって、改憲に反対します。」

「日本を守るために戦争に行くってきいて、なんて、言えるでしょうか。私には言えません。しかし、憲法を変えて彼らを送ろうとしている人たちがいます。日本を守るためには仕方がないと思うのなら、どうぞ憲法を変えてあなたが戦場に行ってください。私は絶対に友達や先輩に戦場に行ってしまうことはありません。自衛隊員は今でも24時間体制で日本の海や空を見守っています。そんな自衛隊員を守ってくれているのが今の憲法ではないでしょうか。私は、自衛隊を戦場に行かせないという強い決意をもって、改憲に反対します。」

「日本を守るために戦争に行くってきいて、なんて、言えるでしょうか。私には言えません。しかし、憲法を変えて彼らを送ろうとしている人たちがいます。日本を守るためには仕方がないと思うのなら、どうぞ憲法を変えてあなたが戦場に行ってください。私は絶対に友達や先輩に戦場に行ってしまうことはありません。自衛隊員は今でも24時間体制で日本の海や空を見守っています。そんな自衛隊員を守ってくれているのが今の憲法ではないでしょうか。私は、自衛隊を戦場に行かせないという強い決意をもって、改憲に反対します。」

※2面に続く

元町のSさんは

「第二次大戦後81年、日本は平和な社会を築いてきました。この間幾度か戦争に巻き込まれる場面もありましたが憲法9条の存在がそれを防いでくれました。現在改憲の声が高くなっています。確かに世の変化に応じた改憲は必要でしょう。しかし不戦の精神は絶対必要です。私たちの国は食糧にしろ、燃料にしろ自国だけでは現有の人口を養うことはできません。日本は世界が平和でなければ存在できない国なのです。ではどうしたら世界の平和が守れるのでしょうか。18世紀に登場したジャンジャック・ルソーは『社会契約論』の中で『力による正義は認めない』と言っています。9条を持つ日本は今こそルソーの言葉を掲げ不戦の声をあげる

べきです。『強者による弱者を支配する権利はない』のです。日本の国民一人一人が世界に向け『力による正義は認めない』ことを強くアッピールすべきです。このことから私は改正にあたり9条を残すことをお願いしたいと考えております。『戦争は嫌だ!』元町のKさんは「先日ある一人の女性からパレスチナの民族色をあしらったポシュエットをいただきました。袋の内側にタグが縫い付けられていてそこに小さなメッセージが書かれてありました。『もし私が死ななければならぬなら、あなたは私の物語を語るために生きなければならぬ』、まさに今、死と隣り合わせで生きている人の吐くような言葉。私にはまだこの緊迫感はない!この人た

ちとの距離を感じました。語り伝えていくことが今生きている者の責任だろうと思ったとき、一人思い浮かんだ方がいました。S先生です。大島で住み始めた頃、戦後生まれの私は漠然と戦前・戦中に生きていた普通の人々は何をしていたのだろうという疑問を抱いていました。そんな私の問いに真剣に熱く向き合ってくれたのがS先生でした。同性の先輩であり、平和を語り伝えていく生き方を見せて下さっている先輩が私の住んでいるところにいらっしやる!とても心強く思ったものでした。

『あの時何をしてたのか』、上の世代に抱いていた問いは今自分に向けられています。ますます個々に分断されてい



「私たちは、戦争につながる憲法改悪に反対します。」を採択して、集会は閉会しました。

る今、世代を超えてつなぐ、つながる、とはどういうことか、どうすればどうなるのか、これからこの答えを見つけていくことがS先生から出された宿題に思えます。」

トークの後、「青い空は」を全員で合唱し、ヒロシマに思いを込め平和を誓いあいました。

憲法前文と9条の朗読が行われ、その重みをしっかりと感じ直し、最後に集会決議、1「私たちは、アメリカ・イスラエルとイランとの『戦争』を直ちに終わらせるため、日本政府が積極的に努力するよう求めます。」2「私たちは、戦争につながる憲法改悪に反対します。」を採択して、集会は閉会しました。

吉行淳之介に「島へ行く」 登山の場面をいつものようにという短編小説がある。文芸 引用紹介する。

誌「文学界」の1960(昭和35)年一月号に発表した「どうだ山への登るか? 宿で待つてもいいんだよ」 頂上には大きな火口がある。いままで紹介してきた「夏の休暇」は、同じ「文学界」の1955(昭和30)年一月号に載ったもので、その五年後に発表したのが、これから紹介する「島へ行く」である。

この作品は登場人物も一 馬子の手が、彼女を馬の上郎・その父親・若き女性(に押し上げた。ロバに乗った男父親の愛人)で、3人そろっ の子(一郎)をはさんで、彼て三原山登山をしたことな 女を乗せた馬と、彼を乗せたど、「夏の休暇」と同工異曲 馬と幸福な親子三人の観の作品である。ただ違うのは 光客の構図が出来上がった。「夏の休暇」は、一郎の視点 その構図が、彼女の眼に浮かから、「島へ行く」は、女性と かび上がった瞬間、彼女は父親の視点から描かれている げしい疲労と心の衰えを覚ことである。以下、三原山 えた。(以下次号)

大島文学・紀行散策

拾遺編

吉行淳之介 「島へ行く」 六

1 56 良 孝 得 時